

1. 科目名 (単位数)	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SCMP2127 SPMP2427
2. 授業担当教員	長谷川 行雄		
4. 授業形態	講義、集団討議、演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解をする。保健、医療、福祉等の各分野における相談援助の対象及び相談援助の基本的考え方を理解するとともに、各分野における相談援助に係る専門職や他職種の専門性などについても理解する。また、精神障害者の相談援助における権利擁護について、自己決定のあり方や権利擁護システムなどについて具体的に学ぶ。さらに、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について学ぶことを目的とする。		
8. 学習目標	以下の点について理解することが期待される。 ①精神保健福祉士が行う相談援助活動の対象と相談援助の基本的考え方。 ②相談援助に係る専門職（地域、行政、精神科病院、精神科診療所を含む）の概念と範囲 ③精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲 ④精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と他職種連携（チームアプローチを含む）の意義と内容		
9. アサイメント（宿題）及びレポート課題	課題レポート① 「ライフステージにおけるメンタルヘルスの課題についてまとめ、精神保健福祉士の役割について論述しなさい」 課題レポート② 「精神保健福祉分野における権利擁護の意義と役割について、自立支援、利用者主体、自己決定など、多角的な視点を踏まえて考察し論述しなさい」		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『精神保健福祉士養成セミナー 3（第6版）「精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]』へるす出版、2017。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 精神保健福祉における相談援助の概要・対象・専門職・包括的支援・他職種連携・権利擁護などを理解しているか。 2. レポート課題にそった内容が論理的に述べられているか、正しい文法表記、適切な用語と漢字で記載されているか、提出期限が守られているか。 3. 授業を受ける基本的マナー（出席状況、持ち物、提出物など）および授業に積極的に参加しているか。 ○評定の方法 1 期末試験 : 総合点の40% 2 レポート : 総合点の40% 3 授業態度 : 総合点の20%		
12. 受講生へのメッセージ	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ・Ⅱは精神保健福祉士の専門性を学ぶ上での基盤となる内容で連動して構成されている科目です。事前学習と事後学習をしっかりと行って授業に臨み理解を深め単位を落とすことのないようにして下さい。この科目の理解ができることで、精神保健福祉援助技術論、演習、実習へとつながることができますので、しっかりと学ぶよう心がけて下さい。当然のことですが、欠席、遅刻、早退をしないことはもちろんのこと、授業中には集中して積極的に参加して下さい。		
13. オフィスアワー	別途通知する（時間割表掲載のオフィスアワー欄参照）。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	精神科ソーシャルワーク論Ⅰのふり返り 精神科ソーシャルワーク論Ⅱの授業概要 現代のメンタルヘルスに関わる問題についてディスカッション	事前学習	現代社会における様々なメンタルヘルスに関わる課題を新聞などで探してくること。
		事後学習	現代のメンタルヘルスの背景についてまとめること。
第2回	精神保健福祉分野における相談援助の体系① 相談援助の基本的考え方 ミクロからマクロ、ソーシャルワークの体系、実践モデル	事前学習	テキスト pp. 80～108 を読んで、実践モデルの変遷について理解してくること。
		事後学習	ソーシャルワークの体系および実践モデルについての要点をまとめること。
第3回	精神保健福祉分野における相談援助の体系② ソーシャルワークの基本的展開過程 ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク	事前学習	テキスト pp. 108～127 を読んで、ケース、グループ、コミュニティの展開過程を理解してくること。
		事後学習	それぞれの展開過程における精神保健福祉士の役割と機能についてまとめること。
第4回	精神保健福祉分野における相談援助の体系③ 相談援助の対象 医療機関、地域生活支援、司法、精神保健福祉センターなど	事前学習	精神障害者が生活をする上で、どのような資源を利用するのかについて考えてくること。
		事後学習	それぞれの社会資源が対象とする利用者についてまとめること。
第5回	精神保健福祉分野における相談援助の体系④ 相談援助の現状と今後の課題 ライフステージや職場・社会環境におけるメンタルヘルスの問題	事前学習	テキスト pp. 19～33、pp. 177～192 を読んで、社会状況やライフステージについて理解をしてくること。
		事後学習	講義およびディスカッションによる学びをもとにして、課題レポート①を作成すること。

第6回	精神保健福祉に関わる専門職① 医療機関 メディカルスタッフ、コメディカルスタッフ	事前学習	テキスト pp.139~144 を読み、医療機関にはどのような専門職がいるか調べてくること。
		事後学習	メディカルスタッフ、コメディカルスタッフの役割についてまとめること。
第7回	精神保健福祉に関わる専門職② 福祉行政・関連行政機関 福祉事務所現業員、社会復帰調整官、障害者職業カウンセラー 等	事前学習	テキスト pp.144~148 を読み、福祉行政・関連行政機関にはどのような専門職がいるか調べてくること。
		事後学習	福祉行政・関連行政機関に配置されている専門職や職員の役割についてまとめること。
第8回	精神保健福祉に関わる専門職③ 地域福祉施設 生活相談員、職業指導員、サービス管理責任者、等	事前学習	テキスト pp.148~151 を読み、地域福祉施設にはどのような専門職がいるか調べてくること。
		事後学習	地域福祉施設に配置されている職員の役割についてまとめること。
第9回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲① 相談援助における権利擁護の概念と範囲	事前学習	テキスト pp.171~175 を読んで、精神障害者の権利について考えてくること。
		事後学習	精神障害者の権利を擁護することについて、歴史的背景および社会状況を踏まえまとめること。
第10回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲② 権利擁護システムと、当事者の自己決定、意思決定能力 キーワードに関するディスカッション	事前学習	テキスト pp.162~170 を読んで、当事者の自己決定と意思決定能力について考えてくること。
		事後学習	ディスカッションを通して学んだことを踏まえ、精神障害者の権利擁護についてまとめること。
第11回	精神障害者の相談における権利擁護の意義と範囲③ 精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割 事例を使ってディスカッション	事前学習	精神保健福祉士の倫理綱領を読み、権利擁護をどのように実践するのかについて考えてくること。
		事後学習	授業内容と事例に関するディスカッションを通して、課題レポート②を作成すること。
第12回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携① 総合的・包括的援助を支える理論と機能	事前学習	テキスト pp.152~163 を読んで、他職種連携について考えてくること。
		事後学習	精神保健福祉活動において、他職種連携の必要性についてまとめること。
第13回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携② 他職種連携とチームアプローチの意義と概要	事前学習	テキスト pp.152~163 を読んで精神保健福祉士が他職種と連携する上でのポイントをまとめてくること。
		事後学習	支援をする上で、他職種の連携がどのように機能するのかについてまとめること。
第14回	精神保健福祉活動における包括的援助と他職種連携③ 他職種連携における精神保健福祉士の役割 事例を使ったディスカッション	事前学習	支援者と当事者の連携にはどのようなメリットがあるかをまとめてくること。
		事後学習	事例を使ったディスカッションを通して、当事者や家族の参加による支援のあり方についてまとめること。
第15回	精神科ソーシャルワーク論Ⅱのまとめ テーマに基づくディスカッション	事前学習	テキスト、資料などを見直し、これまでに学んだことを確認してくること。
		事後学習	授業で行ったディスカッションについてまとめること。また、期末試験に向けて、各回の授業内容を再度見直し理解を深めること。
期末試験			